

特長

1 1つの現場でプライマーの使い分けが不要です。

一般鉄部をはじめ、ガルバリウム鋼板などの非鉄金属のほか、コンクリートや住宅屋根スレートなど様々な下地へ適応します。JASS 18 M-109適合品です。

2 塗り替え適性に優れます。

弱溶剤のため、既存塗膜を溶かしにくく、塗り替え用プライマーとして最適です。

3 作業性が抜群です。

刷毛、ローラーの作業性に優れ、速乾性で作業効率が良く、温度条件によっては、その日のうちに上塗りの塗装が可能です。

4 良好な防錆効果を発揮します。

特殊エポキシ樹脂を使用しており、他社構造物錆止めペイント(JIS K5551 A種相当)と同レベルの防錆力を示します。

5 遮熱タイプをラインアップしています。

エポラオールプライマーの性能に、遮熱機能をプラス！ 遮熱タイプの上塗りとの組み合わせをお勧めします。

6 環境対応型塗料です。

鉛系やクロム系の顔料を含んでいない、地球環境に配慮した塗料です。しかも弱溶剤タイプのため低臭で、安全な塗装環境で安心して作業ができます。

試験成績

※試験成績に記載の試験結果は、参考値で有り、規格値ではありません。

試験項目	試験方法	規格	試験結果
付着性	JIS K 5600 間隔：2mm、マス目数：25	25/25	剥離無し
耐水性	JIS K 5600 浸漬時間7日	塗膜の外観に異常のないこと。	異常なし
耐温水性	60℃温水浸漬 浸漬時間7日	塗膜の外観に異常のないこと。	異常なし
耐塩水噴霧性	JIS K 5600 浸漬時間480時間	塩水噴霧に耐えること。	異常なし
耐複合サイクル防食性	塩水噴霧0.5時間→湿潤(30℃)1.5時間→熱風乾燥(50℃)×2時間→温風乾燥(30℃)2時間を1サイクルとして36サイクル	複合サイクルの試験に耐えること。	異常なし
日射反射率	JIS K 5602に準拠。(遮熱ホワイト)	近赤外波長域の反射率を明記	65～75%

標準色

- グレー ● 赤サビ
- 黒サビ ● 遮熱ホワイト

荷姿

- 16kgセット { A液 14kg
B液 2kg
- 4kgセット { A液 3.5kg
B液 0.5kg

塗装基準

※塗装仕様に関する詳細は、最寄りの営業所にお問い合わせください。

① 素地調整

- フクレ、割れ、浮きなどの劣化塗膜はケレン工具を用いて除去してください。
- サビは電動工具やサンドペーパーなどを用いて除去し、被塗面を清掃してください。

② シンナー

- 無希釈でご使用ください。*3

③ ポットライフ(可使用時間) ● 塗料の可使用時間は6時間(23℃)です。

④ 塗装方法

塗装方法	刷毛・ローラー・スプレー
希釈率	0% *3
塗布量	0.13～0.16kg/m ²
膜厚(ドライ)	30～40μm

- ※1: 吸い込みが著しい下地の場合最大で0.50kg/m²を目安としてください。
- ※2: 吸い込みが激しい下地の場合、上塗り1回目で置換泡が発生することがあります、その場合は、上塗り1回目が乾燥する前にローラー等で泡消し作業を行なってください。
- ※3: 塗料粘度が上昇する冬季や、乾燥が著しく早い猛暑時で塗りにくい場合は、塗料用シンナーAを、5%以内を目安にご使用ください。
- ※4: 厚膜仕様での塗装は別途ご相談ください。

⑤ 乾燥条件

乾燥条件	5℃	23℃	30℃
指触乾燥	3時間	1時間	30分
上塗り塗装間隔	6時間以上72時間以内	3時間以上72時間以内	2時間以上72時間以内

- ※最短の塗装間隔は、その日の環境条件により異なることがあります。
- ※上塗り塗装間隔以内であっても、降雨や霜、露などによりヨゴレが付着している場合は、剥離のおそれがありますので、必ず洗浄を行ってから次工程に入ってください。

主な適用素地

△=あらかじめ試験施工を行ない、付着性の確認を行なってください。

素地	適応性	素地	適応性	素地	適応性
鉄	○	銅板	○	薄型化粧スレート	○
トタン	○	ガルバリウム鋼板	○	厚型スレート瓦	○
化成処理亜鉛鋼板	○	アルミニウム	○	セメント瓦	○
ブリキ板	○	アルマイト処理板	△	粘土瓦	×
溶融亜鉛メッキ鋼板	○	アルマイトシルバー、ブロンズ	×	GRC板	△
クロメート処理鋼板	○	FRP	△	押出成形セメント板(EGP)	○
リン酸塩処理鋼板	○	硬質塩ビ	○	コンクリート、モルタル	○
電気亜鉛メッキ	○	軟質塩ビ	×	木部	△
ボンデライト	○	塩ビゾル鋼板	×		
ステンレス	○	波型スレート	○		

主な適用既存塗膜

△=あらかじめ試験施工を行ない、付着性の確認を行なってください。

既存塗膜	付着性	既存塗膜	付着性
合成樹脂調合ペイント(OP)	△	シリコンアルキド樹脂塗料	○
フタル酸樹脂エナメル(EF)	○	エマルジョンペイント	○
エポキシ樹脂塗料	○※1	水性ポリウレタン樹脂塗料	○
ポリウレタン樹脂塗料	○※1	水性アクリルシリコン樹脂塗料	○
塩化ゴム系樹脂塗料	△	水性フッ素樹脂塗料	△
アクリル樹脂塗料	○	瀝青系シルバー塗料	×
ラッカー塗料	○	シリコンポリエステル	△
アルミニウムペイント	×	オイルフリーポリエステル	△
フッ素樹脂塗料	△	メラミンアルキド	○
シリコンアクリル塗料	○	アクリルメラミン	○

● 予め試験施工を行ない、付着性の確認を行なってください。

※1: 強溶剤塗料で全く溶解しない場合は、予め試験施工を行ない、付着性の確認を行なってください。

主な適用上塗塗料

- パラサーモン
 - パラサーモシリコン
 - パラサーモフッ素
 - リリーフNADシリコン
 - リリーフNADウレタンN
 - リリーフNADフッ素
- その他、外装材、塗り床材、防水材の下塗りにもご使用いただけます。
- ※ 上塗りは弱溶剤系に限ります。

取り扱い上の注意事項

(よく読んでご使用ください)

- 火気のあるところでは、絶対に使用しないでください。
- 万一、火災が発生した場合はABC粉末消火器を用いてください。水は使用しないでください。
- 施工中、乾燥中ともに換気を充分に行ない、ミストや蒸気を吸い込まないようにしてください。
- 取り扱い中は、できるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて有機ガス用防毒マスク、手袋および前掛けなどの保護具を着用してください。
- 取り扱い作業中、容器からこぼれないよう注意してください。こぼれた場合は、直ちに布やウエスで拭き取るか、砂などを散布したのち処理してください。
- 塗料の付着した布やウエスなどは自然発火や引火の危険性があるため、廃棄するまで水につけておいてください。
- 容器は、つり上げないでください。止むを得ずつり上げるときには、適切なつり具で垂直に持ち上げ、落下に充分注意してください(偏荷重になると取っ手が外れ、落下する危険性があります)。
- 取り扱い後は、手洗いおよびうがいを充分に行なってください。
- 目に入った場合は、多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合は、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 材料が皮膚に付着し、痛みや外観変化があるときは、医師の診察を受けてください。
- 蒸気やガスを吸い込んで気分が悪くなった場合は、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けてください。
- 保管は必ずフタをして、直射日光の当たらない場所に保管してください。
- 子供の手の届かないところに保管してください。
- 中身を使いきってから廃棄してください。また、廃液・汚泥などは関係法規に基づき、自社で適正に処理するか、産業廃棄物処理業者に委託して処理してください。
- 本製品は環境に配慮した材料を用いていますが、ご使用いただいたすべての人の健康状態を保証するものではありません。
- 詳細は警告ラベル、または安全データシート(SDS)をご参照ください。

* 製品改良のため、仕様などを予告なしに変更することもあります。ご了承ください。

【その他、ご不明な点がございましたら、最寄りの営業所へお問い合わせください】

日本特殊塗料株式会社

■ 代理店

■ お問い合わせ先

東京営業所 〒114-8584 東京都北区王子3-23-2	☎(03)3913-6203 FAX(03)3913-6323
東京営業所 東北広域 〒984-0051 宮城県仙台市若林区新寺3-7-40-201	☎(022)762-6301 FAX(022)762-6302
神奈川営業所 〒254-8503 神奈川県平塚市長瀬1-10	☎(0463)23-2135 FAX(0463)23-3739
中部営業所 〒472-0006 愛知県知立市山町東並木12	☎(0566)81-8111 FAX(0566)81-8124
大阪営業所 〒565-0853 大阪府吹田市春日1-4-12	☎(06)6386-8492 FAX(06)6338-3560
中四国営業所 〒739-0025 広島県東広島市西条中央4-3-13	☎(082)423-8231 FAX(082)423-8256
九州営業所 〒849-0112 佐賀県三養基郡みやき町江口4726	☎(0942)89-5766 FAX(0942)89-5762

● 日本特殊塗料ホームページ <https://www.nttoryo.co.jp/>

EAP-0321OD-S#3 [2021年3月作成]